

中国研究の課題探る

京大センター 設立記念で講演会



現代中国について人文、社会、政治、経済などの統合研究を進める京都人文科学研究所現代中国研究センター（京都市左京区）の設立記念講演会「京都モデルの現代

中国研究をめざして」が三十一日、同研究所で開かれた。研究交流を進めている台湾、中国の研究者が、中国近現代史研究の課題について語った。センターは、四月に発

足した。中国の社会主義文化や社会システムをテーマにした共同研究や、中国の地方新聞コレクションなど所蔵する貴重な資料の整備と活用を進める。

講演会で、王汎森・台湾歴史語言研究所長は

黒シルク専門店
ジョリマン・西洞院三条下
(212)9619

「（歴史研究は）大事件の結果から解読しがちだが、さまざまな歴史的要素がからみ合っている。熟知しているという思い込みをなくすことが必要だ」と話し、重要視されていないかった地方の知識人や保守派などの研究の

必要性を指摘した。

一方、中華民国史が専門の汪朝光・中国社会科学院民国史研究室主任は「国民党と中国共産党の争いという視点とは違う枠組みも必要」とし、「深めていかなければいけない研究領域」として、抗日戦争における日本占領地域の研究などを挙げた。

京都新聞（朝刊）

2007年6月1日